



成田 あれ・これ



令和8年11月号 第377号

発行：成田市観光協会
成田市花崎町839
0476-24-3198

第27回 成田山公園紅葉まつり

秋の深まりとともに、紅葉が鮮やかに色づく季節となりました。成田山公園に涼しい秋風が吹く頃になると公園はまるで錦絵のような日本庭園に変貌します。

例年11月中旬から12月上旬にかけ、モミジ、クヌギ、ナラ、イチョウなど約250本の木々が赤や黄色に色づきます。池の水面に映る紅葉は優雅で美しく、足を進める度に変化する風景を楽しむことができます。

紅葉まつりでは成田山公園内竜智の池に浮かぶ浮御堂にて演奏会を、成田山書道美術館隣の茶室赤松庵(せきしょうあん)では茶会を開催します。

自然が創り出した、刻一刻と移り変わる美しい錦絵と共に、秋のひと時をお楽しみください。

【会期】11月14日(土)～11月29日(日)期間中の土・日・祝日に演奏会やお茶会を開催します。

	演奏会 時間:11時～・13時30分～ 場所:成田山公園内竜智の池 浮御堂(雨天時は成田山書道美術館)	お茶会 時間:10時～15時 (先着順、定員に達し次第受付終了) 場所:成田山公園内茶室 赤松庵
11月14日(土)	津軽三味線 紺谷 英和	熊谷 宗光 社中
11月15日(日)	箏 清翔会、尺八 竹樹会	阿地 宗玲 社中
11月21日(土)	箏 清翔会、尺八 竹樹会	十和の会
11月22日(日)	二胡 ワン シャオフォン	五井野 宗風 社中
11月23日(月・祝)	二胡 ワン シャオフォン	休 止
11月28日(土)	箏 清翔会、尺八 竹樹会	矢澤 宗文 社中
11月29日(日)	二胡 ワン シャオフォン	静の会

【お問合せ先】(一社)成田市観光協会 TEL 0476-22-2102





11月の予定

千葉県立房総のむら 文化の日・日本遺産北総四都市デー

文化の日にふさわしい伝統の技や伝統芸能等の実演を行います。また、日本遺産「北総四都市江戸紀行」のガイダンス施設として、この遺産のストーリーや構成市である成田市・佐倉市・香取市・銚子市の伝統文化、観光・物産等を紹介します。文化の日のため入場無料となります。

【日 時】 11月3日(火・祝) 10時30分～18時

(開館時間が変更となります。ご注意ください。)

【休館日】 月曜日(月曜日が祝・休日の場合は開館し、翌日休館)

【お問合せ先】 千葉県立房総のむら TEL 0476-95-3333

NARITA 花火大会 in 印旛沼

無数の打上花火が、秋の夜空を美しく彩ります。皆様も一緒に楽しみながら参加できる花火大会です。音楽と光との演出の素晴らしさで作り出される感動のショーをご堪能ください。

【日 時】 11月7日(土) 18時 荒天の場合中止 【場 所】 ニュータウンスポーツ広場(成田市台方)

JR 成田駅西口・成田スカイアクセス成田湯川駅・京成電鉄公津の杜駅より、臨時バスを運行する予定です。

※会場周辺には駐車場がありませんので公共交通機関でご来場ください。

【お問合せ先】 NARITA 花火大会実行委員会 TEL 0476-27-4779 (土日祝除く 10時～18時)

滑河観音 木まち

観音様のご縁日。大護摩修行や稚児行列が行われます。

「木まち」の「まち」とは、「賑やかなところ、市(いち)」を表します。もともとは馬の取り引きをする馬市でしたが、現在では植木市として賑わいを見せています。

11月18日まで特別結縁の開扉です。この機会に、一丈二尺の中本尊様にお会いください。

【日 時】 11月18日(水) 【お問合せ先】 龍正院(滑河観音) TEL 0476-96-0217

第46回成田市産業まつり

成田市公設地方卸売市場を会場に第46回産業まつりを開催します。会場内では、地元の商工業製品、市内の農家の皆さまによって大切に育てられた農産物の展示や、新鮮な農水産物販売や飲食物等の出店があります。

また、スタンプラリー、体験コーナーなど大人から子供まで楽しめるイベントも開催されます。

当日は会場である卸売市場の仲卸業者も営業しますので、お買い物をお楽しみいただけます。

駐車場は、市場内をご利用ください。また、成田市役所から臨時シャトルバスが30分間隔で運行いたします。

※雨天時は、イベント内容が変更または一部中止となることがございます。

【日 時】 11月7日(土)・8日(日) 8時～14時

【場 所】 成田市公設地方卸売市場(成田市天神峰80番地1)

【お問合せ先】 成田市役所 経済部 商工振興企業立地課 TEL 0476-20-1622



成田山門前町を行く～その⑫

明治10年代の成田山にとって特筆すべきは、14年と15年の二度にわたり明治天皇が下総種畜場(下総御料牧場の前身)に行幸された際、いずれも成田山新勝寺に宿泊されたことです。行在所(あんざいしょ)には、当時の客殿の奥座敷15畳の間があてられました。行在所とは、明治天皇が宿泊するために建てられた御座所のことで、今は光輪閣の奥にある「奥殿」となります。

幕末の三舟と称される明治維新の功労者として知られる山岡鉄舟は、明治天皇の側近として仕え、天皇からの信任を厚く受けていました。明治15年に天皇が行幸された際にも、宮内少輔として随行しました。

書家としても第一級であり、今でも成田山の明治天皇行在所の傍室に掲げてある「不動心」と書かれた書は、見る者の心を打つ迫力ある筆跡です。

明治10年代から20年代にかけて成田山の不動信仰は、関東各地から東海地方、さらに東北、北海道へと広がり、各地に続々と教会所、末寺が創建されましたが、中でも明治14年には東京・深川に成田山不動堂、26年には横浜に成田山延命院が建立され、それぞれの地にあって不動信仰の拠点となりました。

明治27年4月の「成田山人員調書」によると、新勝寺の寺務員の人数は収納方11人、勘定方6人、広間41人、その他あわせて114人にのぼっています。

明治初年以降の成田山の発展ぶりは、めざましいものがあつたといえるでしょう。(次回に続きます。)

イベント等の関連情報については、FEEL 成田 (<https://www.nr-tk.jp>) をご覧下さい。